

②日常生活上、不便なこと、困っていること

○ 日常生活上、不便なこと、困っていることについて、自由記載でみると、「痛み・負担」に関わる記述が 36 人 (47.4%) と最も多い。内訳をみると、以下のような記述があった。

- 「身体中が、時々しびれた様に痛くなる」
- 「今年 50 歳代になり、身体的に若干の衰えを感じます。特に偏頭痛と腰痛がひどく鎮痛剤がはなせません」
- 「ときどき股関節が痛く、歩くのがつらい時もあります。」

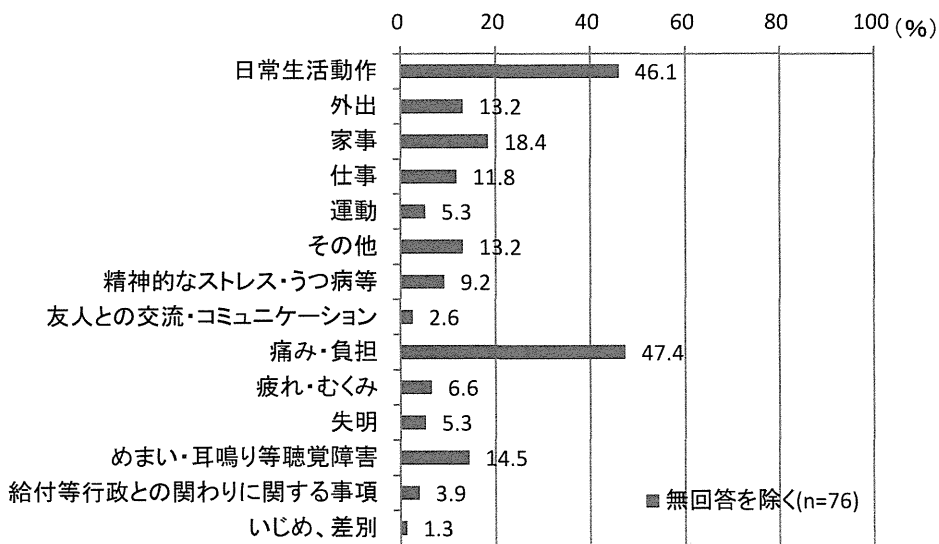
○ ついで、「めまい・耳鳴り等の聴覚障害」11 人 (14.5%)、「精神的なストレス・うつ病等」7 人 (9.2%) が続いている。「精神的なストレス・うつ病」に関する記載の内訳をみると、以下のような記述があった。

- 「施設に入所している。言語表現ないため、意志表示が分からないが、雰囲気からストレス、不満は相当あると思う」(代筆回答)
- 「ある日運転が怖くなり、常時、人をはねたのではとか、色々運転時の恐怖感を覚えました。そのため、精神科に通う事になり『強迫性障害』と診断され、会社を退職に追い込まれ、現在傷病手当をもらっている状態です」

○ そのほか、日常生活上の家事支援サービスを求める意見があり、具体的には、以下のような記述があった。

- 「手が痛いのでだんだん生活が一人でしにくくなってきました。手が痛いので家事が出来づらいです。将来掃除や家事のヘルパーさんが必要になった時に、サリドマイドの人がすぐに支援を受けられるような制度を作ってください。」
- 「入院する前には要介護認定を受けて、地域の支援センターやヘルパーさんをお願いしてなんとか一人暮らしをがんばってもらっていますが、病気の際はやはり自分の無力さを感じています。父の年齢も高く心配しています」

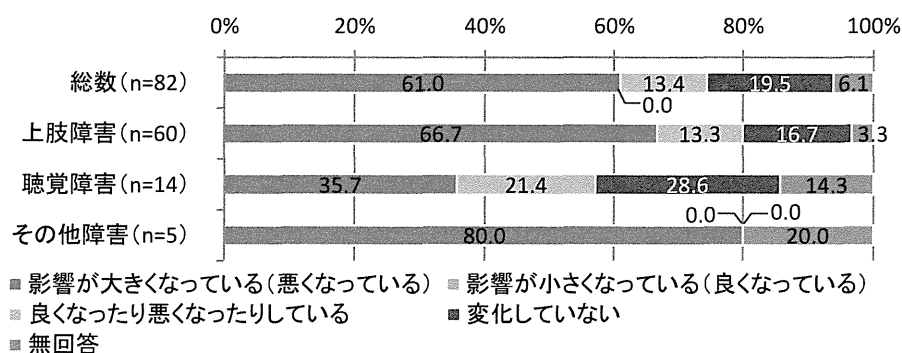
図表 9 日常生活上、不便なこと、困っていることに関する自由記述の比率；内容別



③この5年間の日常生活への影響の度合いの変化

- この5年間の日常生活への影響の度合いの変化は、全体でみると、「影響が大きくなっている（悪くなっている）」が50人(61%)と最も多く、次いで「変化していない」が16人(19.5%)である。「影響が小さくなっている（良くなっている）」と答えた人は0人である。
- 障害種別でみると、「影響が大きくなっている（悪くなっている）」と回答した比率は、上肢障害が聴覚障害に比べて高い。一方、「良くなったり悪くなったりしている」「変化していない」と回答した比率は、聴覚障害が上肢障害に比べて高い。

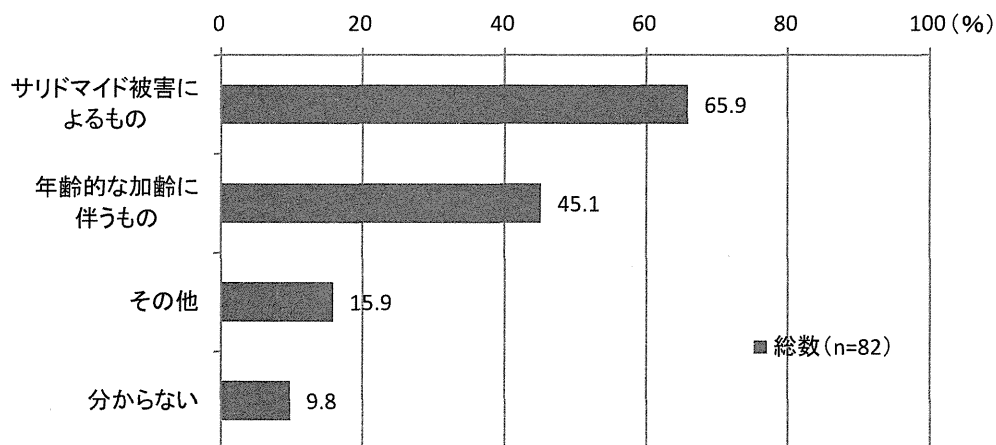
図表 10 この5年間の日常生活への影響の度合いの変化；障害種別



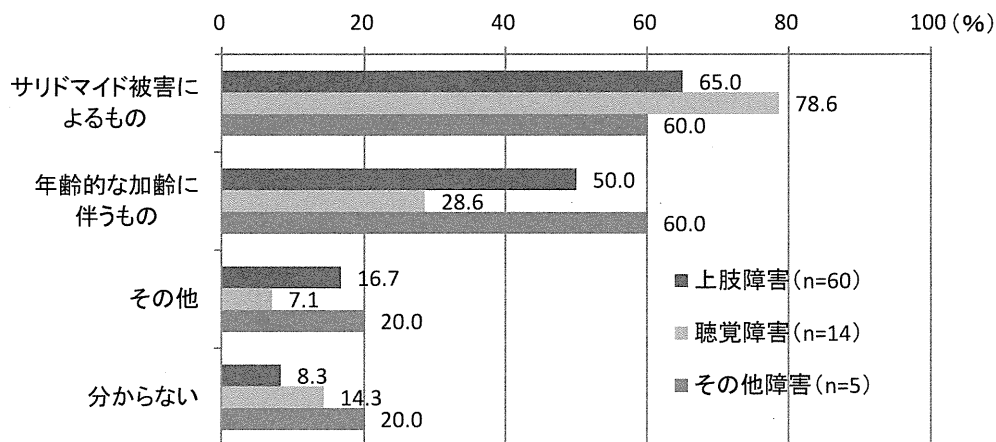
④日常生活への影響の原因

- 日常生活への影響の原因は、全体でみると、「サリドマイド被害によるもの」が54人(65.9%)と最も多く、次いで「年齢的な加齢に伴うもの」が37人(45.1%)、「その他」が13人(15.9%)である。
- 障害種別でみると、「サリドマイド被害によるもの」と回答した比率は、聴覚障害が上肢障害に比べて高い。「年齢的な加齢によるもの」と回答した比率は、上肢障害が聴覚障害に比べて高い。

図表 11 日常生活への影響の原因（複数回答）；全体



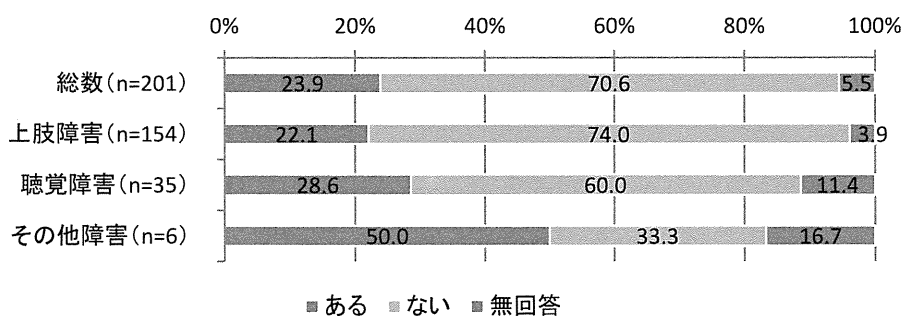
図表 12 日常生活への影響の原因（複数回答）；障害種別



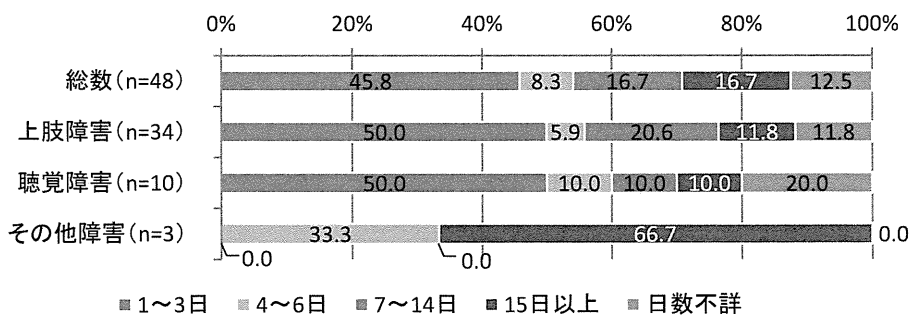
⑤健康上の問題による過去1ヶ月間の普段の活動への影響

- 過去1ヶ月間に、健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかった日の有無は、全体でみると、「活動できなかった日がある」が48人（23.9%）である。
- 障害種別でみると、「活動できなかった日がある」と回答した比率は、聴覚障害が上肢障害に比べてやや高い。
- 過去1ヶ月間に、健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかった具体的な日数は、全体でみると、1～3日が22人（45.8%）と最も多く、次いで7～14日、15日以上がそれぞれ8人（16.7%）である。
- 障害種別でみると、7日以上と回答した比率は、上肢障害が聴覚障害に比べて高い。

図表 13 健康上の問題による過去1ヶ月間の普段の活動への影響有無；障害種別



図表 14 普段の活動への影響があった日数；障害種別

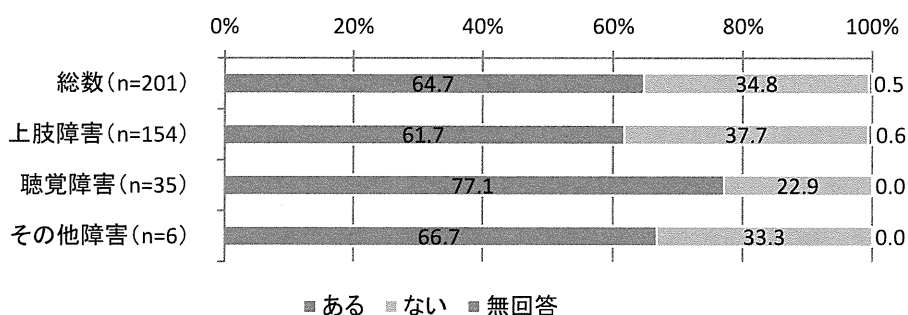


3. 医療・保健サービスの利用状況

(1) 病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）

- ここ数日、病気や怪我などで体の具合の悪いところ（自覚症状）の有無は、全体で見ると、「自覚症状がある」が130人（64.7%）である。
- 障害種別で見ると「自覚症状がある」と回答した比率は聴覚障害が上肢障害に比べて高い。

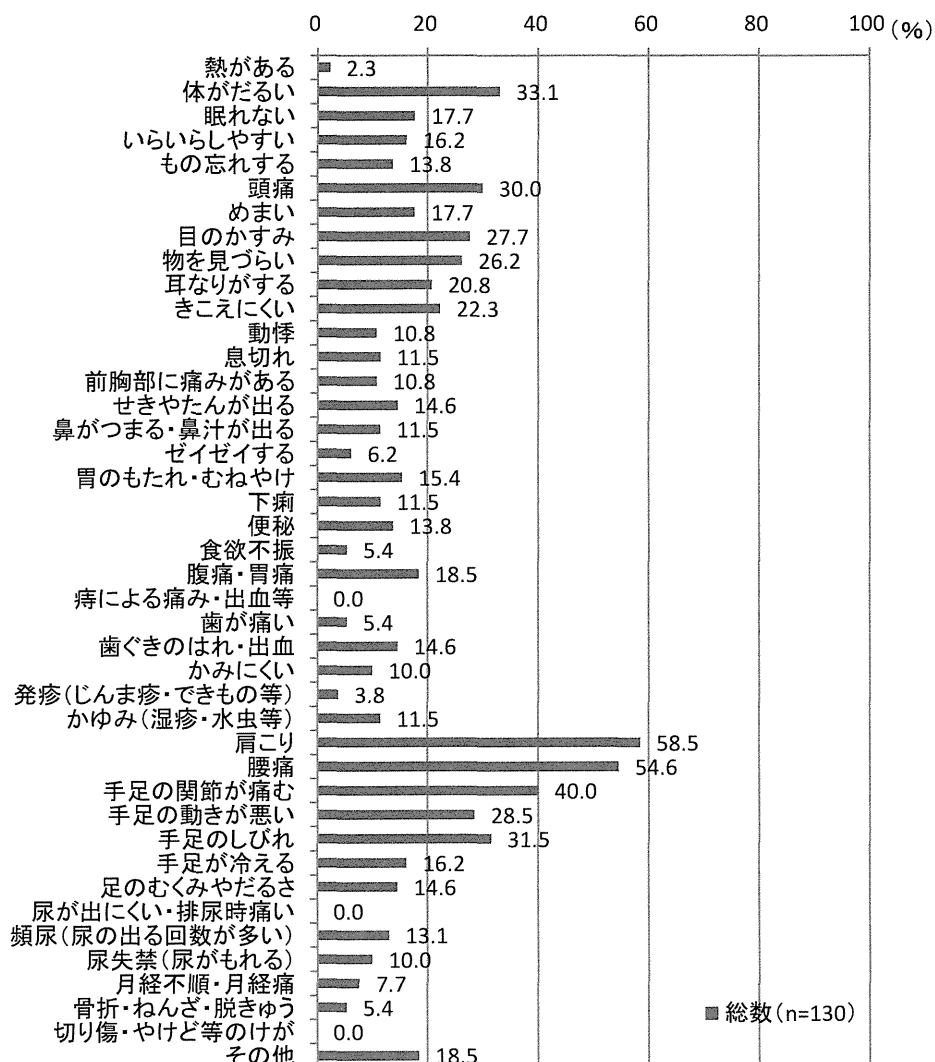
図表 15 ここ数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）の有無；障害種別



①自覚症状の具体的な内容

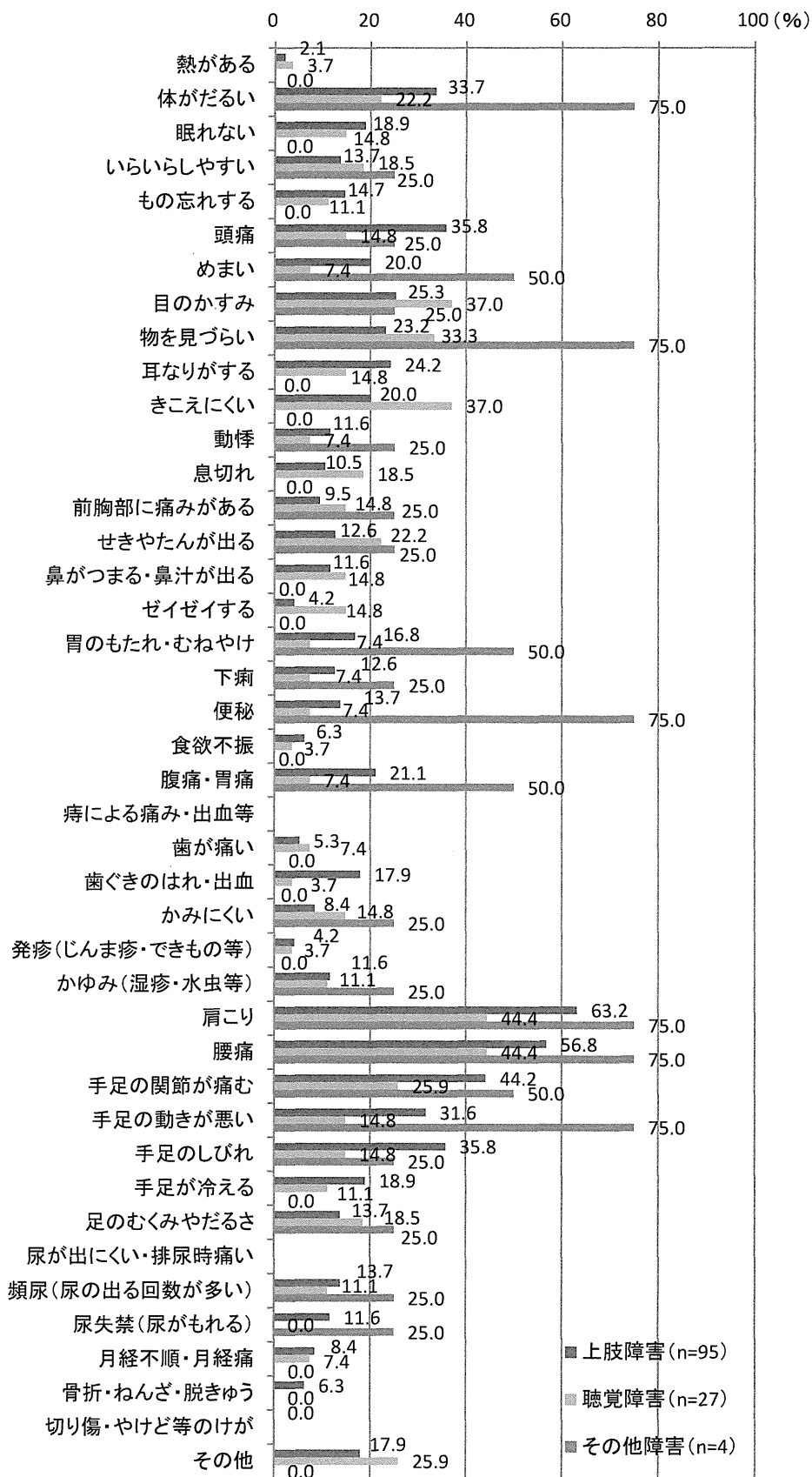
- 自覚症状の具体的な内容は、全体で見ると、「肩こり」が76人（58.5%）と最も多い。次いで、「腰痛」が71人（54.6%）、「手足の関節が痛む」が52人（40%）、「手足のしびれ」が41人（31.5%）、「手足の動きが悪い」が37人（28.5%）といった筋骨格系、手足の症状の比率が高い。また、「体がだるい」が43人（33.1%）、「頭痛」が39人（30%）であった。
- 「その他」の具体的な内容として、以下のような記述があった。
 - 「坐骨神経痛」
 - 「時々微熱が続く時があります」
 - 「血圧が高い」
 - 「握力もだんだんなくなってきている」
 - 「背筋痛」
 - 「ワレンベルグ症候群による嚥下障害」
 - 「耳の中の悪臭がひどい。耳掃除した後に、特に匂う」

図表 16 自覚症状の具体的な内容（複数回答）；全体



- 障害種別に比率の高い症状は、上肢障害で見ると、「肩こり」が60人(63.2%)と最も多く、次いで「腰痛」が54人(56.8%)、「手足の関節が痛む」が42人(44.2%)である。一方、聴覚障害で見ると、「肩こり」「腰痛」がそれぞれ12人(44.4%)と最も多く、次いで「きこえにくい」「目のかすみ」がそれぞれ10人(37%)である。
- 障害種別で比較して、上肢障害の比率が聴覚障害より10ポイント以上高い症状は、「体がだるい」「頭痛」「めまい」「腹痛・胃痛」「歯ぐきのはれ・出血」「肩こり」「腰痛」「手足の関節が痛む」「手足の動きが悪い」「手足のしびれ」「尿失禁」である。一方、聴覚障害の比率が上肢障害より10ポイント以上高い症状は、「目のかすみ」「物を見づらい」「きこえにくい」「ゼイゼイする」である。

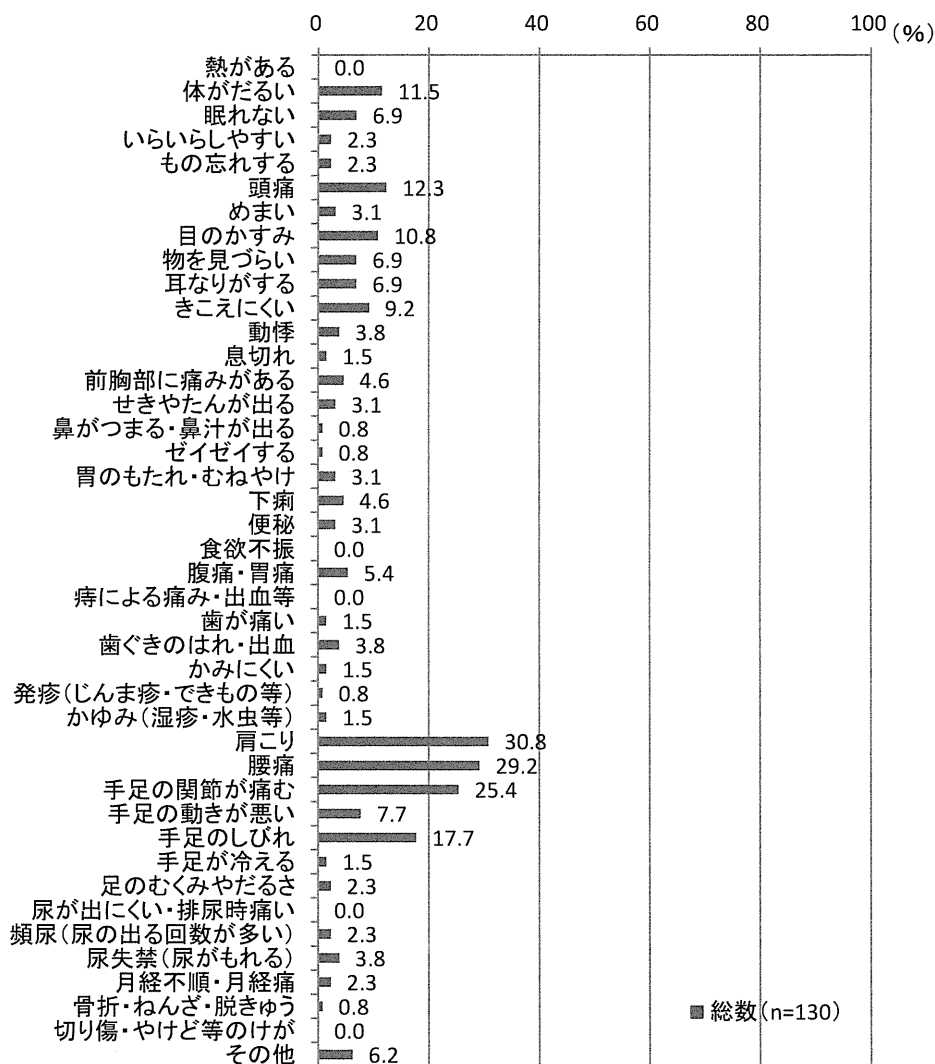
図表 17 自覚症状の具体的な内容（複数回答）；障害種別



②本人が最も気になる自覚症状

- 自覚症状の中で本人が最も気になる症状は、全体でみると、「肩こり」が40人(30.8%)と最も多く、次いで「腰痛」が38人(29.2%)、「手足の関節が痛む」が33人(25.4%)、「手足のしびれ」が23人(17.7%)である。

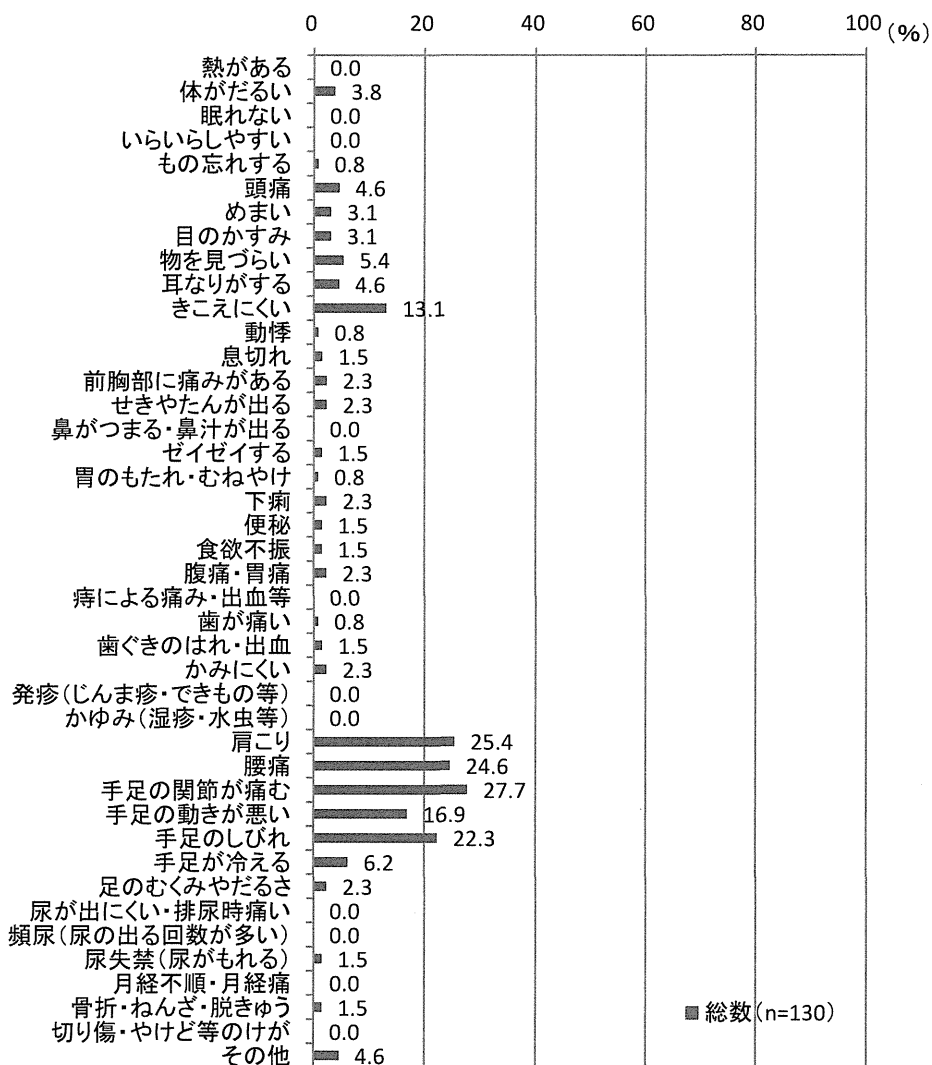
図表 18 本人が最も気になる自覚症状（複数回答）；全体



③本人がサリドマイド被害との関係を心配している自覚症状

- 自覚症状の中で本人がサリドマイド被害との関係を心配している症状は、全体で見ると、「手足の関節が痛む」が36人(27.7%)、「肩こり」が33人(25.4%)、「腰痛」が32人(24.6%)、「手足のしびれ」が29人(22.3%)といった筋骨格系、手足の症状の比率が高い。一方、「きこえにくい」が17人(13.1%)である。
- 最も気になる自覚症状とサリドマイド被害との関係を心配している自覚症状の比率は同様の傾向である。

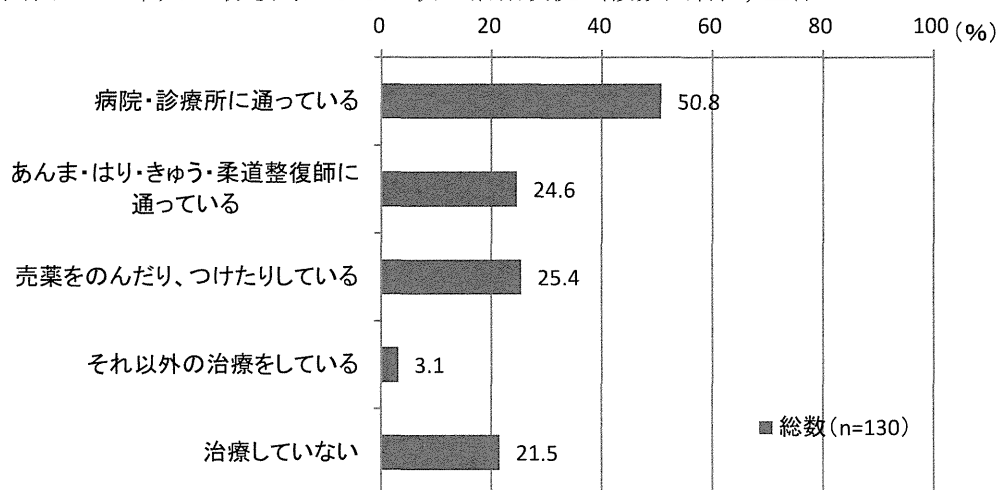
図表 19 本人がサリドマイド被害との関係を心配している自覚症状（複数回答）；全体



④本人が最も気になる症状の治療状況

- 本人が最も気になる症状の治療状況は、全体で見ると、「病院・診療所に通っている」が 66 人 (50.8%)、次いで「売薬をのんだり、つけたりしている」が 33 人 (25.4%)、「あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている」が 32 人 (24.6%) である。一方、「治療していない」者は 28 人 (21.5%) である。

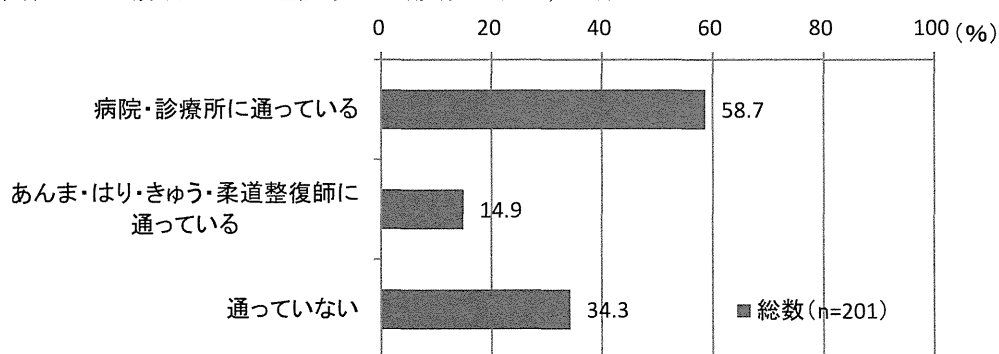
図表 20 本人が最も気になる症状の治療状況（複数回答）；全体



(2) 傷病による通院状況

- 現在の傷病（病気やけが）による通院状況は、全体で見ると、「病院・診療所に通っている」が 118 人 (58.7%) と最も多く、「あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている」が 30 人 (14.9%) である。一方、「通っていない」者は 69 人 (34.3%) である。

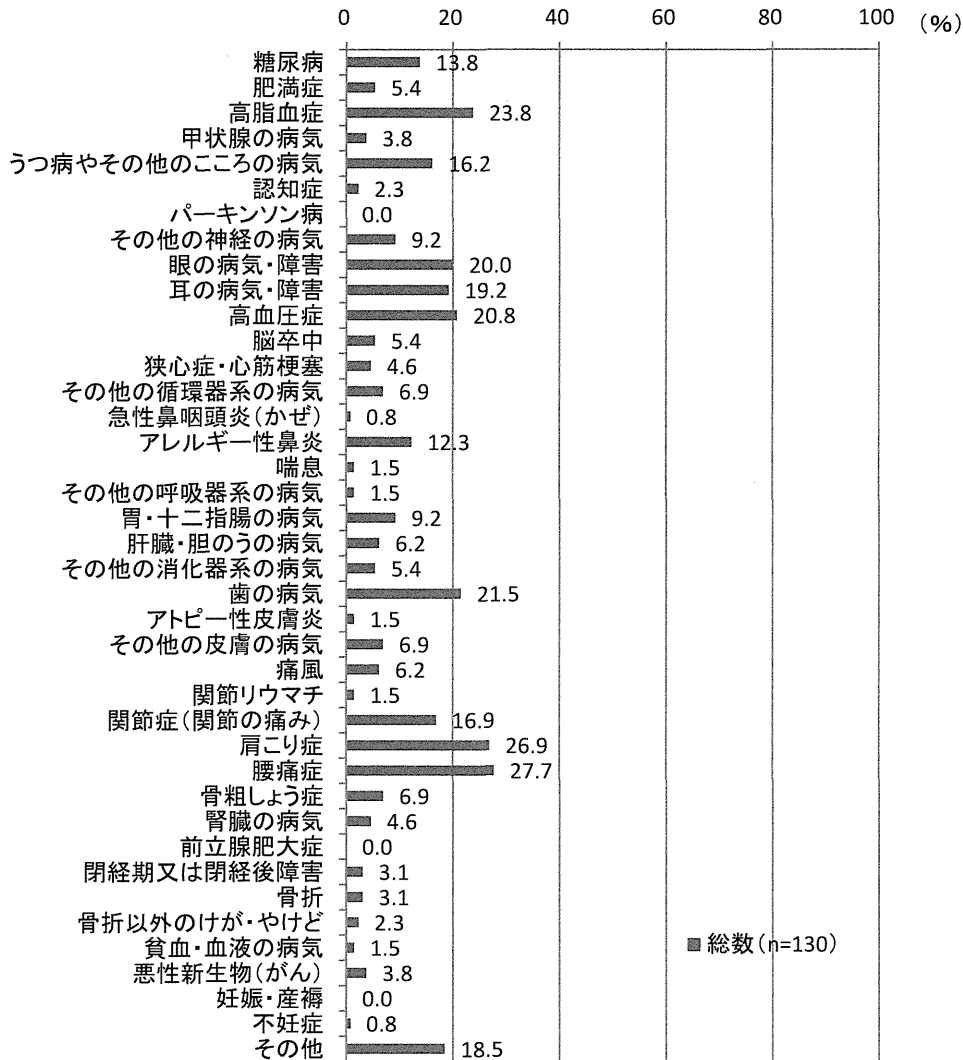
図表 21 傷病による通院状況（複数回答）；全体



①通院している傷病

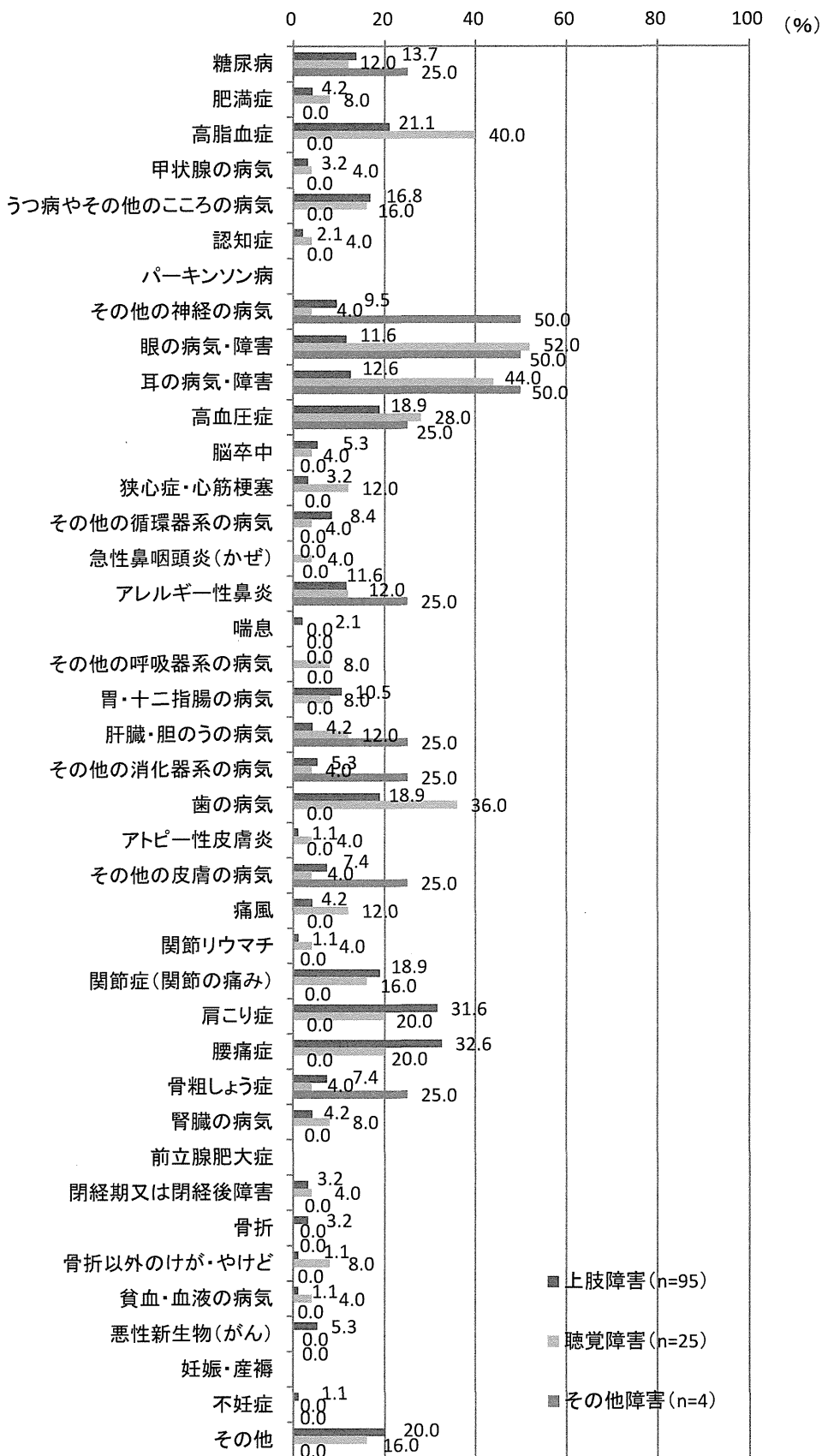
- 通院している傷病の具体的な内容は、全体で見ると、「腰痛症」が36人(27.7%)と最も多く、次いで「肩こり症」が35人(26.9%)、「高脂血症」が31人(23.8%)、「高血圧症」が27人(20.8%)、「眼の病気・障害」が26人(20%)である。
- 「その他」の具体的な内容として、以下のような記述があった。
 - 「ねんざ・リンパ」
 - 「手根管症候群」
 - 「アレルギー」
 - 「股関節形成不全」
 - 「卵巣がはれている」
 - 「胃が弱っている。ピロリ菌がある」
 - 「大腿骨骨頭壊死症」
 - 「鼠径ヘルニア」
 - 「婦人科 子宮筋腫」
 - 「貧血」
 - 「うつ病」
 - 「膠原病」

図表 22 通院している傷病の具体的内容（複数回答）；全体



- 障害種別に比率の高い傷病は、上肢障害でみると、「腰痛症」が31人(32.6%)と最も多く、次いで「肩こり症」が30人(31.6%)、「高脂血症」が20人(21.1%)である。一方、聴覚障害でみると、「眼の病気・障害」が13人(52%)と最も多く、次いで「耳の病気・障害」が11人(44%)、「高脂血症」が10人(40%)、「歯の病気」が9人(36%)、「高血圧症」が7人(28%)である。
- 障害種別で比較して、上肢障害の比率が聴覚障害より10ポイント以上高い症状は、「肩こり症」「腰痛症」である。一方、聴覚障害の比率が上肢障害より10ポイント以上高い症状は、「眼の病気・障害」「耳の病気・障害」「高脂血症」「歯の病気」である。

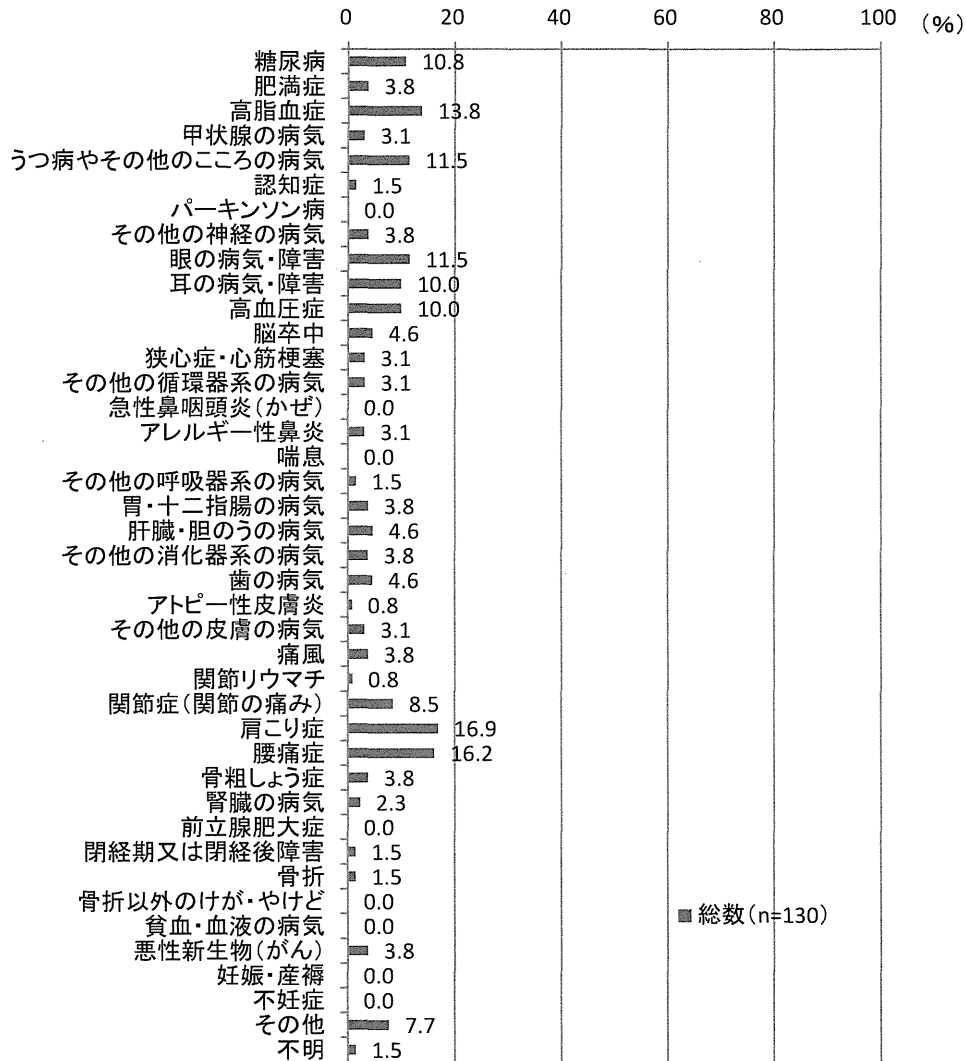
図表 23 通院している傷病の具体的内容（複数回答）；障害種別



②本人が最も気になる通院している傷病

○ 通院している傷病の中で本人が最も気になる傷病は、全体で見ると、「肩こり症」が 22 人 (16.9%)、「腰痛症」が 21 人 (16.2%) である。

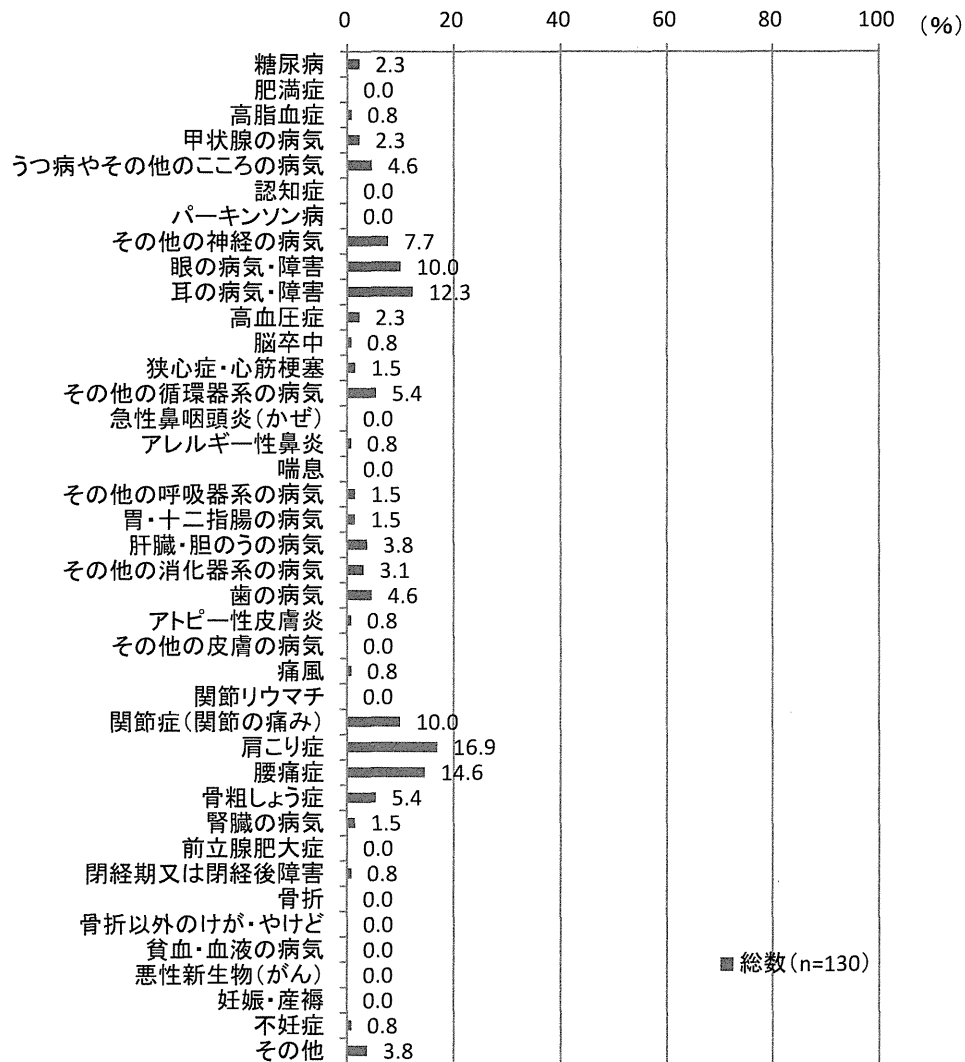
図表 24 本人が最も気になる通院している傷病 (複数回答) ; 全体



③本人がサリドマイド被害との関係を心配している傷病

- 通院している傷病の中で本人がサリドマイド被害との関係を心配している傷病は、全体で見ると、「肩こり症」が22人(16.9%)、「腰痛症」が19人(14.6%)である。
- 最も気になる傷病とサリドマイド被害との関係を心配している傷病の比率は同様の傾向である。

図表 25 本人がサリドマイド被害との関係を心配している傷病(複数回答)；全体



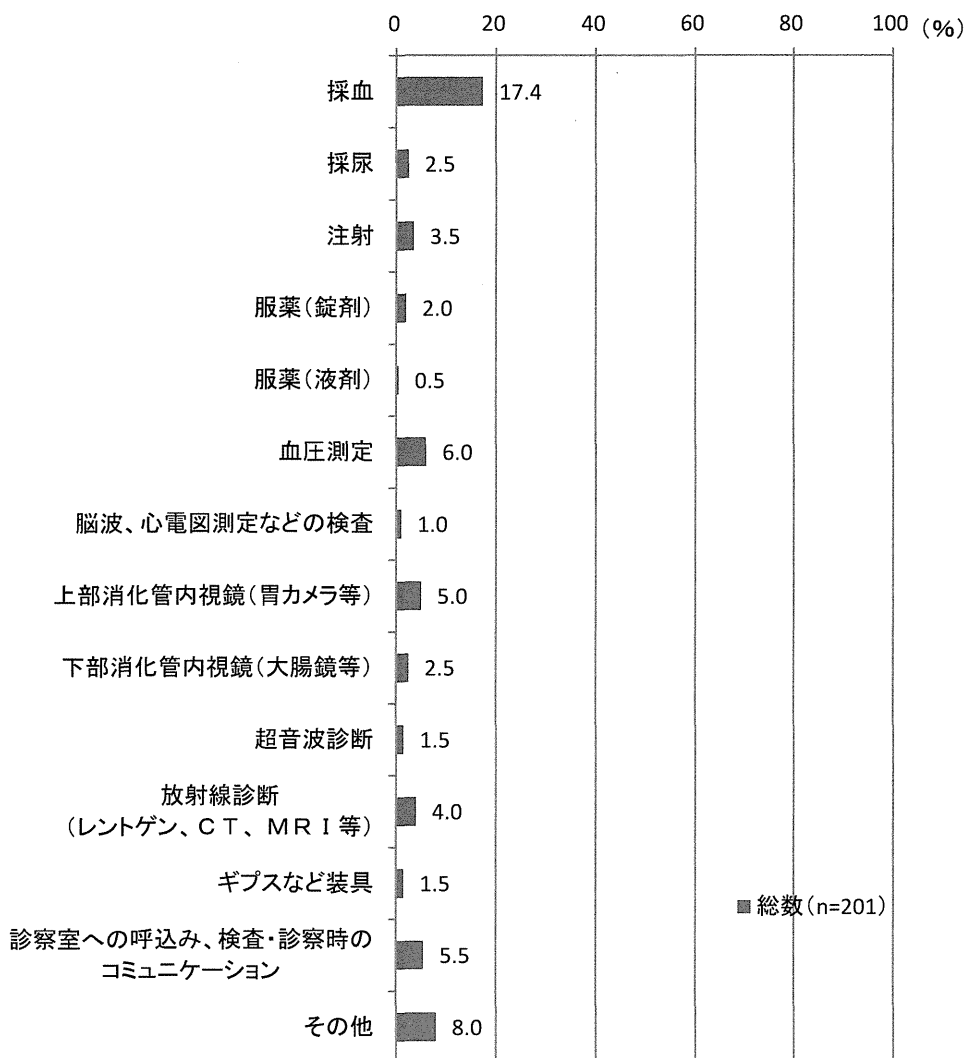
④定期的に通院している医療機関

- 回答者が定期的に通院している医療機関数は、平均 1.96 ヶ所、最大 7 ヶ所である。通院している医療機関数の分布は、1 ヶ所が 58 人 (48.3%) と最も多く、次いで 2 ヶ所が 28 人 (23.3%)、3 ヶ所が 19 人 (15.8%) である。
- 通院頻度は、「1 ヶ月に 1 回以上」が 88 人 (38.4%) と最も多く、次いで「3 ヶ月に 1 回以上」が 55 人 (24%) である。一方で、「1 週間に 1 回以上」「2 週間に 1 回以上」と頻度高く通院している人が 35 人 (15.3%) である。障害種別でも同様の傾向であるが、「1 週間に 1 回以上」「2 週間に 1 回以上」といった頻回通院の比率は、上肢障害が聴覚障害に比べて高い。
- 通院方法は、全体で見ると、自家用車が 98 人 (42.8%) と最も多く、次いで徒歩が 62 人 (27.1%)、電車が 40 人 (17.5%) となっている。障害種別でも同様の傾向である。
- 通院にかかる時間 (片道) は、30 分以内が 135 人 (59%) と最も多く、次いで 1 時間以内が 57 人 (24.9%)、2 時間以内が 12 人 (5.2%) である。一方で、3 時間超が 3 人 (1.3%)、3 時間以内が 6 人 (2.6%) である。
- 通院にかかる交通費は、全体で見ると、無料が 92 人 (40.2%) と最も多く、次いで 5 百円以下が 53 人 (23.1%)、1 千円以下が 32 人 (14%) である。
- 医療機関にかかったきっかけは、全体で見ると「サリドマイド被害による障害等に対応できるか否かは気にしていない」が 156 人 (68.1%) と最も多い。一方で、「サリドマイド被害による障害等に対応できる場所を自分で探した」「サリドマイド被害による障害等に対応できる場所を自分で探した」をあわせてサリドマイド被害に対応できる場所を選んでいる比率は 29 人 (12.7%) である。

(3) 医療機関を受診する上で困ること、できないこと

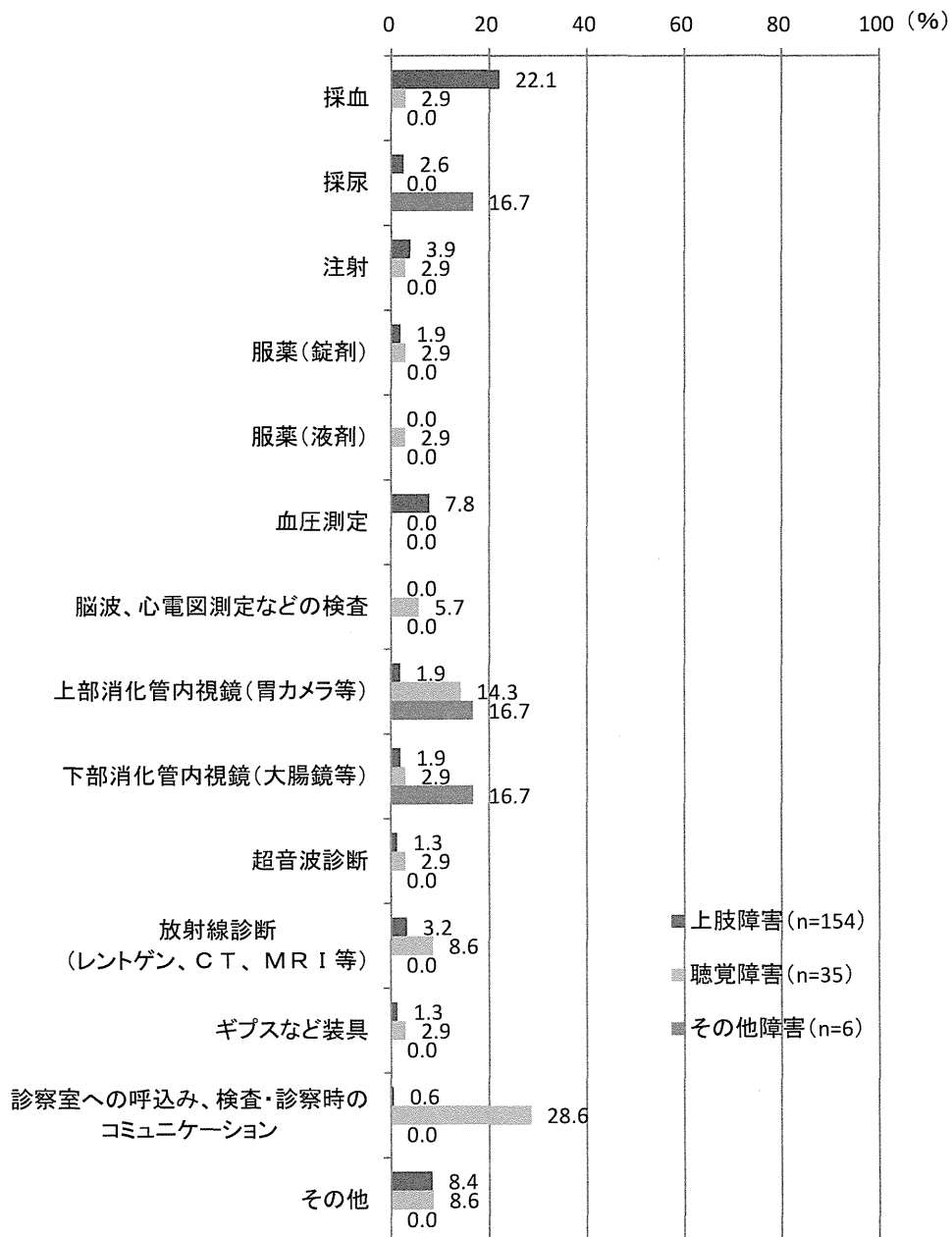
- 現在、医療機関を受診する上で困ったり、できなかつたりすることは、全体で見ると、「採血」が 35 人 (17.4%)、その他が 16 人 (8%)、「血圧測定」が 12 人 (6%)、「上部消化管内視鏡 (胃カメラ等)」が 10 人 (5%) である。
- 「その他」の具体的な内容として、以下のような記述があった。
 - 「点滴」
 - 「診察時やレントゲン時の服の脱着」
 - 「看護師による採血に時間がかかる」
 - 「人の手がないと下着の上げ下げなどが出来ず、一人では尿をとることが出来ません。」
 - 「両手が短い為、動脈硬化等を調べる機械がつけられませんでした。」
 - 「病院内に手話が出来る看護婦が居ないことで、コミュニケーションが難しく母親が付き添う。」
 - 「バリウムを飲む胃の検査を健康診断で申し込んだら、両手で掴まれないと危ないのでと断られた。」

図表 26 受診する上で困ること、できないこと（複数回答）；全体



- 障害種別で見ると、上肢障害では「採血」が34人(22.1%)と最も多く、「血圧測定」が12人(7.8%)である。聴覚障害では「診察室への呼び込み、検査・診察時のコミュニケーション」が10人(28.6%)で最も多く、「上部消化管内視鏡(胃カメラ等)」が5人(14.3%)、「放射線診断(レントゲン、CT、MRI等)」が3人(8.6%)となっている。

図表 27 受診する上で困ること・できないこと（複数回答）；障害種別



(4) 健診等の受診状況

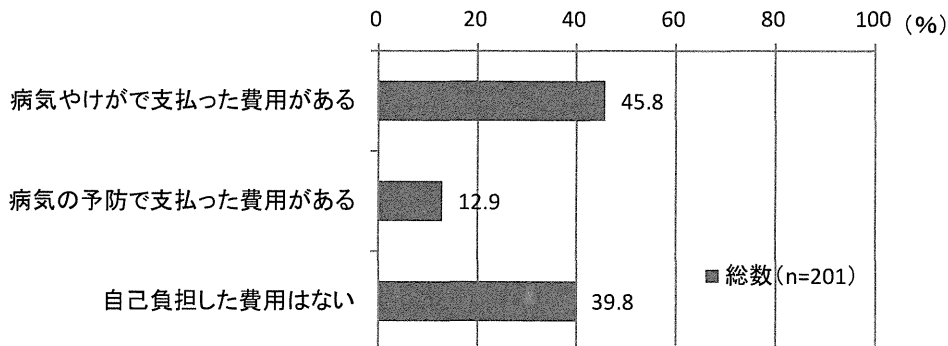
- この1年間の健診等の受診状況は、全体で見ると、「受診あり」が140人(69.7%)である。障害種別で見ても同様の傾向である。
- 健診等の受診機会は、全体で見ると、「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が93人(66.4%)と最も多く、次いで「市区町村が実施した健診」が26人(18.6%)、「国立国際医療研究センター病院の人間ドック」が20人(14.3%)である。
- 健診等を受けるうえで困ったり、できなかつたりすることについては、以下のような記述があった。(原文ママ)
 - 「薬の副作用で口が渇いて辛いので、胃癌の検診は受けられない」
 - 「市の健診で胃カメラの車で受けられないと言われた」
 - 「胃の造影レントゲン時、左手でバリウムの入ったコップを持ち、飲むように指示があるが、左手ではバリウム入りのコップは重くて持てない。」
 - 「手話通訳者がいないと困る時もあります。」
 - 「骨粗しょう症の検査で、人間ドックで実施する備え付けの検査機器では測定出来ない。」

(5) 3ヶ月間の医療費の自己負担状況

最近3ヶ月間の医療費の自己負担状況は、全体で見ると、「病気やけがで支払った費用がある」が92人(45.8%)である。一方、「自己負担した費用はない」が80人(39.8%)である。

最近3ヶ月の医療費の負担合計金額(治療、予防含む)は、全体では、負担なし(0円)が103人(51.2%)と最も多く、次いで1円~5,000円が31人(15.4%)、10,001円~20,000円が20人(10%)、5,001円~10,000円が19人(9.5%)となっている。一方、2万円以上負担しているのは28人(14%)である。

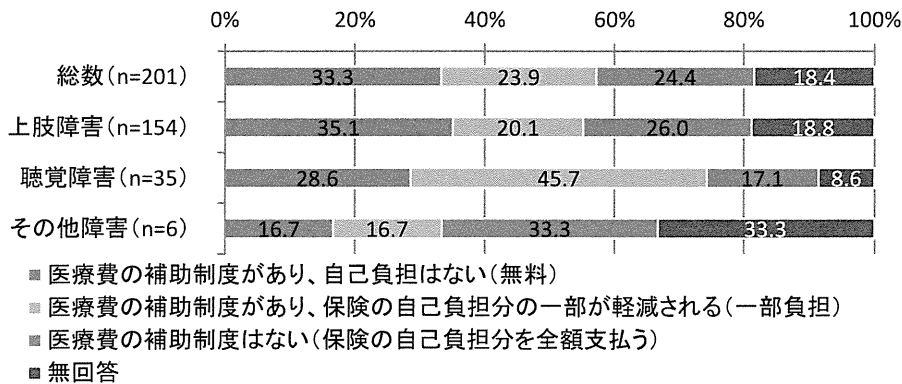
図表 28 医療費の自己負担有無(複数回答); 全体



(6) 市町村の医療費補助制度の有無

- 居住している市町村の医療費の補助制度は、全体で見ると、「医療費の補助制度があり、自己負担はない（無料）」が 67 人（33.3%）と最も多く、「医療費の補助制度があり、保険の自己負担分の一部が軽減される（一部負担）」とあわせて、何らかの補助制度がある者は 115 人（57.2%）である。一方で、「医療費の補助制度はない（保険の自己負担分を全額支払う）」が 49 人（24.4%）である。

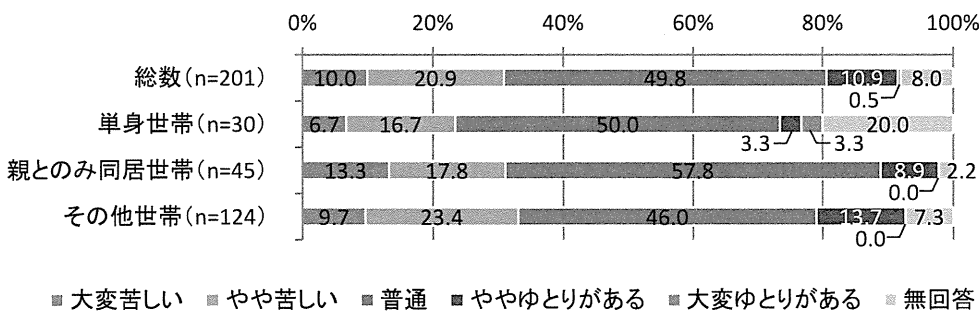
図表 29 医療費補助制度有無；障害種別



(7) 世帯の現在の総合的な暮らしの状況

- 世帯の現在の暮らしの状況を総合的に見てどう感じるかは、全体で見ると、「普通」が 100 人（49.8%）と最も多く、次いで「やや苦しい」が 42 人（20.9%）、「ややゆとりがある」が 22 人（10.9%）である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯では「普通」が 15 人（50%）と最も多く、「やや苦しい」が 5 人（16.7%）となっている。親とのみ同居世帯では「普通」が 27 人（57.8%）、「やや苦しい」が 8 人（17.8%）、「大変苦しい」が 6 人（13.3%）となっている。その他世帯では「普通」が 56 人（46%）、次いで「やや苦しい」が 29 人（23.4%）、「ややゆとりがある」が 17 人（13.7%）である。

図表 30 世帯の現在の総合的な暮らしの状況；世帯類型別

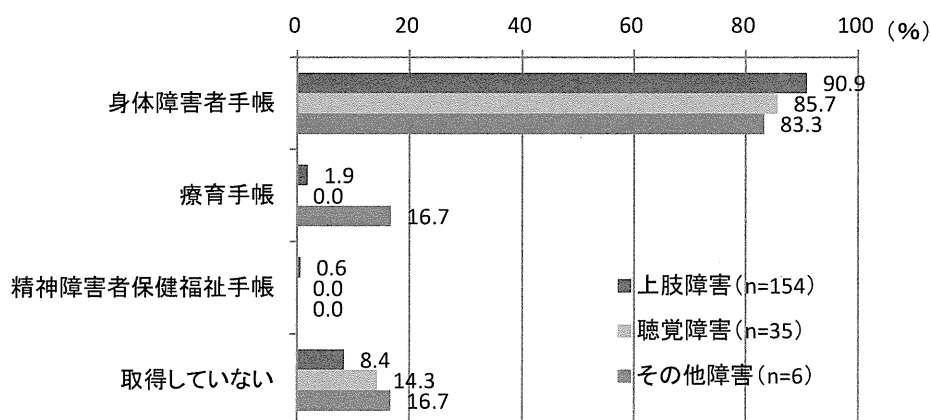


5. 福祉・介護サービスの利用状況

(1) 障害者手帳の取得状況

- 障害者手帳の取得状況は、全体でみると身体障害者手帳が181人（90%）と最も多い。一方で、「取得していない」が19人（9.5%）である。

図表 31 障害者手帳の取得状況（複数回答）；障害種別



①手帳を取得していない理由

- 手帳を取得していない理由は、全体でみると、「特に手帳がなくても困らない」が14人（73.7%）と最も多く、次いで「手帳の制度や取得の手続きがわからない」が3人（15.8%）、「その他」が2人（10.5%）である。
- 「その他」の具体的な内容として、以下のような記述があった。
 - 「手帳をなくし基本番号は分かるのに再発行ができない。数回の引越しの為に、地元の市町村で発行できないと断られる」
 - 「めんどくさい」

図表 32 手帳を取得していない理由（複数回答）；全体

